

津山工業高等専門学校

数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検評価

評価日時：2023年3月22日

会議名称：教育システム点検委員会

開催場所：津山工業高等専門学校

目的：令和4年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検

内部評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目観点による評価

認定制度の審査項目	科目				内部評価	評価理由
	先進科学系	機械システム系	電気電子システム系	情報システム系		
数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化（第4次産業革命, Society 5.0, データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること。	情報リテラシー	情報リテラシー	情報リテラシー	情報リテラシー	A	シラバスに記載されている通り授業を実施していることを成績資料より確認した。
数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること。	情報リテラシー	情報リテラシー	情報リテラシー	情報リテラシー	A	シラバスに記載されている通り授業を実施していることを成績資料より確認した。
様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること。	情報リテラシー	情報リテラシー	情報リテラシー	情報リテラシー	A	シラバスに記載されている通り授業を実施していることを成績資料より確認した。
数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項（ELSI, 個人情報, データ倫理, AI社会原則等）を考慮することが需要であること。また、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解が重要であること。	情報リテラシー	情報リテラシー	情報リテラシー	情報リテラシー	A	シラバスに記載されている通り授業を実施していることを成績資料より確認した。
実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関すること。	先進科学実験実習Ⅰ	機械システム工学実験実習Ⅱ	電気電子システム工学実験実習Ⅱ	情報システム工学実験実習Ⅱ	A	シラバスに記載されている通り授業を実施していることを成績資料より確認した。

評価基準 A：十分に満足している, B：満足している, C：改善を要する